

からたち関西

発行 / 石川県立金沢二水高校関西同窓会 2012年(平成24年)3月
(金沢二水高校同窓会関西支部)

VOL.12



関西支部も今盛りなり

会長(関西支部長)
17期 林 茂

早いもので、1999年に金沢二水高校関西同窓会が設立されてから13年を迎えました。その間、本部同窓会の関西支部になるという制度的な変化も経験しましたが、様々なイベント(同窓会ネット、ビアパーティー、まほろばハイキングなど)を通じて会員の交流の場を設け、楽しく活発に活動を続けてきました。現在、関西地区(一部三重・愛知地区を含む)の卒業生は900名を超えているらしいのですが、交流の場に参加いただける方が減少傾向にあり、その輪が小さくなってきているように思われます。活力の中心になってきたのは、19期までのメンバーが大部分を占めていて、若い世代の参加が

少なく、このままでは今後長年にわたって、その活力を維持していくことは困難だと思われま
す。如何にしたら若い世代の人々が参加いただけ
るかが大きな課題となっています。

4月より母校では、「知の冒険旅行いまここには
じまる」ということで「いしかわニュースーパー
ハイスクール」が新たに始まります。これと同様に
関西支部でも各種イベントを見直し、参加者が増加
する方向を目指して取り組んでいこうと思っていま
す。一人ひとりが思い描く母校への熱い思いも纏ま
れば、大きな力となって物事を動かすことができ
るだろうと思っ ています。金沢二水の名前を聞くと
心躍らせる方が数多くいらっしやると思います。関
西の同窓会にもぜひ参加して下さい。

「あおによし 奈良の都は 咲く花の にほうが ごと
く 今盛りなり」(小野老-万葉集)。

関西支部も今盛りなりで、多くの方々の参加をお
待ちしております。

第13回総会&懇親会は4月21日、ホテルグランヴィア大阪で開催します。

関西同窓会の「第13回総会・懇親会」は4月21日(土)、JR大阪駅のサウスゲートビル「ホテルグランヴィア大阪」で開催いたします。この会が発足してから13年、本部同窓会関西支部となってから6年が経ちました。しかしながら、発足当時の熱気は冷め、総会への出席者も年々減り続けております。ところが、各期の同期会や運動クラブなどのOB会に参加して楽しかったという話はよく聞きます。それは、たった3年間ですが、共に過ごした学びの場が心を和ませるからだと思ひます。関西同窓会は年齢も職業もバラバラな人たちの集まりですが、ただ一つ同じ学びの場を卒業したという共通点があります。そのことだけで、人は親しみを感合います。交流を重ねるとどんどん楽しくなって行きます。この機会に同窓会デビューをしてみませんか。

金沢二水高校関西同窓会「第13回総会・懇親会」

◆日時 4月21日(土)11:00～(受付開始10:30)

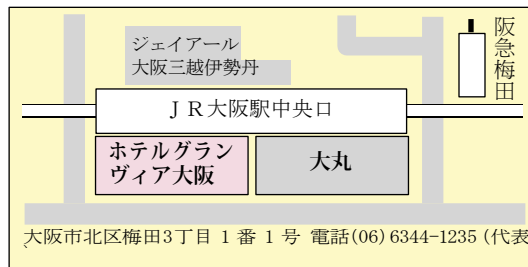
◆場所 ホテルグランヴィア大阪 名庭の間
JR大阪駅サウスゲートビルディング 20F

◆会費 5,500円

*返信用はがきには各自、必ず50円切手をお貼り下さい。
なお、4月9日までにご投函願ひます。

メールでも申込み出来ます。E-mail: nisui@kansai.zaq.jp

■ホテルグランヴィア大阪ご案内



大阪市北区梅田3丁目1番1号 電話(06)6344-1235(代表)



ビアパーティーに参加して

15期 榎本 照子

まず、会のお世話を下さっている役員の皆様一言お礼申し上げます。私達15期で関西在住の方は多いのですが、なかなか会うことも出来ずにいました。この機会に是非会いましょうと約束をし、難波にむかいました。近況報告など、まずお互いの無事を喜び合い、おいしいお酒と料理で昔話に盛り上がった頃、順々に自己紹介が始まりました。この会を立ち上げられた7期中川様が私の姉と同期だったと知り、姉のことを話したところ「良く知っていますよ。活発なお姉さんで馬術部だったでしょう。恐い位しつかりした人だった」と思い出話をして下さり、元気で生きていれば75才になる姉のことを懐かしく思い出しました。亡き姉のことを知っている方にお会い出来たことが、今回出席して一番嬉しく感じたことでした。楽しい時はすぐに過ぎていくものです。お開きの時間になり外へ出ると、どしゃぶりの雨でした。でも心の中は、あたたかいもので満ちていました。

二水関西支部の皆様がお元気でこのように楽しい会に出席できますようにと願いながら…

き生きとパワフルな教師として子供達の前に立つことでした。願いが通じたのか、教師としてスタートして3年目位に、ある素晴らしい先生と出会いました。その方のような授業がしたい、勉強大好き、学校大好きな子供達を育てたいとの強い思いを胸に38年間を駆け抜けました。その方の強い勧めで、毎時間（国語だけですが）授業内容をテープに録音し、授業記録を書き、1時間ごとの子供達の発言を分析しました。それらを手がかりに授業内容を反省し、次の授業計画を立てて実行しました。また、保護者の方々との連携を密にすること等など、授業の質を上げるためあらゆる工夫をしました。その結果、一つ目の夢は自分なりに叶えることができたと思っています。

でも身体は正直です。やりたいことが明確になるにつれて意欲も高まり、無理に無理を重ねたせいか、50歳を過ぎた頃から身体はボロボロになり、寝つきの悪い日眠れない夜が続き、健康食品に1ヶ月に5万円以上を費やす、気が付けばそのような不健康な人になっていました。年を取れば仕方がないのか、このまま細々と小さな楽しみを追いながら生きていくのかなあ…と半分あきらめていました。

ところが約1年半前、ある出会いをきっかけに何もかもすっかり変わりました。健康を取り戻し、心が自由になり、友達の輪が広まり、未来が明るく感じられるようになりました。何より嬉しいのは、先生として燃え尽きてしまったと思っていた私に、新しい夢が生まれたことです。「どうしたん？何が起こったの？」久しぶりに会う友人達からそう言われる度に、(ひ・み・つ・)と心の中で呟く今日この頃です。



夢に向かって

18期(金沢在住)上宮 照子

私は今、人生最後の夢を実現しようと夢中になっています。本当にやりがいのあることなので、日々努力はしてみるものの、今ひとつはつきりとした道筋が見えてきませんでした。少し気持ちが宙ぶらりんになりかかった時、知り合いからあるセミナーのことを聞きました。人生をより豊かにするのに役立つそうだったので、3泊4日の間、朝から夜更けまでのセミナーという強行スケジュールだそうですが、迷わず申し込みました。その準備に追われながら原稿を書いています。

実は、私の以前の夢は、定年退職の最後の日まで生



団塊は初老を迎えた(雑感)

19期 乙村 誠

昨日があるから今日がある。今日を少しでも良く出来れば、明日はもっと豊かになれる。そう信じていた。数は力であった。

小学生の時、一学級編成は五十名以上、中学生の時、一学年の学級数は十五組前後、教室は理科室や音楽室を普通教室化、急造仕立てのプレハブ教室もあった。この数

が大量消費の力を発揮し、テレビも自動車も団地もその大半を購入し、日本の大量生産産業を支えた。頑張れの一言で何でもやってのけた。余力で海外へも飛び立った。

自身の魂が築かれた頃は、田舎（金沢）は本当に田舎だった。役人とは市役所か県庁の人と思っていた。全国的に情報は均一でなく、せこい奴は耳学問の都会人だった。同じ様なアイビールックに見えても、皆違うことを考えていた。マルクスとコカ・コーラとビートルズの申し子と云われ、それが結果、素晴らしいバランスをもたらした。どの世代よりも多くの仲間を持ち、生まれてからずっと交替要員がいくらでもいる競争原理の環境下でやってきた。そして初老を迎えた。老眼が進み、耳も遠く、一寸の段差に躓き、涙脆くなった。医者に聞くと、全て老化の一言で片付けられる。小市民的に家庭を持ち、孫にも恵まれ健康で、今尚企業戦士の一員として、一線に立っていることを喜ぶべきか。単身赴任生活二十余年の上にあることを今更ながら感じております。

『初心忘れるべからず』これは世阿弥が「花鏡」に能の奥義として「是非初心不可忘」と口伝しております。是非は何が何でも事の初心を忘れるな。時々時代、年代節々に於いて初心を見直せ。老後とは人生の到達時、今一度初心とは何かを振り返り考えよと伝えています。思い当たることの多い今日この頃です。

「人は歳月を重ねたから老いるのではない。理想を失うときに老いるのである。」サミエル・ウルマン「青春の賦」の一節より。



「レ・ミゼラブル」 そして、金沢

21期(関東支部) 吉本 昇

若い頃は書くことが嫌いではなかったにも拘わらず、やはり、常にものを書く訓練をしていないと書けなくなるものだと、よく言われることですが、この原稿をお引き受けしてつくづく思います。ものを書くこと、そして文学作品を読むということをはじめたのは、思い起せば高校二年の頃。今になって思えば自分にそぐわない、暗い孤独感みたいなものを伴って図書室の机に向かっていたことが思い出されます。そんな時代にも（というよりはその時代であったからとも言えますが）触れることのないユゴーの小説を、六十を過ぎて幾つも読む（も

ちろん日本語訳です）、そのきっかけを与えてもらったのは、21期東京組の定期的な集まり、そして、そこから生まれた、一堂そろっての鹿賀丈史＝ジャヴェールの「レ・ミゼラブル」観劇でした。

5月。帝劇のホワイエを占める優雅に着飾ったご婦人方やお嬢さんたちの中の、還暦を過ぎたおっさんたちの集団は少し異様なものだったろうと今思い起こしながら、しかし、ステージに立つ鹿賀丈史さん（勝田君）の若々しい声と凛々しい姿に聞き入り、見入っていた時間がこの間のことのように思い出されます。共演の岩崎宏美さん＝ファンチーナの最後の場面の歌声に涙が出そうなほどに引き込まれたことも。普段はなかなか脚を運べないミュージカルのステージですが、その面白さ・素晴らしさを越えた至福の時間でした。

その時間を引き継ぐような、11月の関東支部総会における「鹿賀丈史トーク・ショー」と、ゲストである彼が引き続き出てくれた宴席。21期が少し突出しても許されるような雰囲気でも盛り上がりさせていただきました。昨年のこの素晴らしい時間を創り出してくださった方々すべてに、そして、その場に集まった同期の皆さんに感謝、感謝です。

思えば21期というのは、あの安田講堂の攻防が記憶に鮮明な東大闘争の影響で、東大の入試が行われなかった時の卒業生になります。（と言っても、お前には関係ないやろ、ですが）団塊の世代の尻尾というか付属物というか、そんな我々もすでに還暦を越え、現役を退いてゆくべき年齢になりました。そんななかで、同窓生が寄り集まる時間をこれからも大切にしたい改めてと思う、そんな一年、そして、自分にとっての「レ・ミゼラブル」でした。

閑話休題。昨年の11月に親戚の結婚式で、石川県の旧庁舎に入る機会を持ちました。旧庁舎は玄関側だけが昔のままに残され、奥は改装されてフレンチ・レストランが入っています。もちろん、金沢に住んでいた頃に県庁を訪ねる機会などあるわけがありませんから、その玄関に入ること自体が初めての経験。玄関を入るとすぐ正面にそのまま残されていた階段が強い印象として残っています。その壁に据えられていた、石川県の地図を象った大きなレリーフも。建物の北側は圧倒的に趣を変えて一面のガラス張り。その向こうに、金沢城の（ちょうど本丸から三の丸になるのでしょうか）石垣が一望できます。生憎の雨天ではありましたが、自分が金沢というこの地に生まれ育ったことを素直に思い出させてくれる貴重な時間でした。



クリスマス・イブ

27期 松田 洋志

「からたち関西」愛読者の皆様。はじめまして。27期の松田です。昨年末から、関西同窓会役員の末席を務めさせて頂いております。宜しくお願い致します。

表題の「クリスマス・イブ」って、何だか素敵な響き??? だったのはいつのことやら・・・?

我が家の子供たちも成人を過ぎ、ファミリーパーティーも無くなり、ここ数年のクリスマスイベントは12月24日のA Hundred Birdsのクリスマス・イブコンサートに老?夫婦で出掛ける事です。

毎年12月24日に「なんば Hatch ホール」で開催されるこのコンサートは、一年の締めくくりと、新しい年への活力を実感させてくれる素晴らしいイベントです。

ここで少し A Hundred Birds の御紹介を……。このユニットはDJ YOKUが中心となって結成された30数名のオーケストラで、ドイツやフランスの国営交響楽団で活躍するヴァイオリニストの高木 和弘さんをはじめ世界的なミュージシャンの流動的な集合体。クラシックと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、ジャズやファンク、ヒップホップ、ソウル、ラテンの要素を取り入れたメッチャクチャファンキーなダンスミュージックを楽しませてくれます。

(YOU TUBE には 2011・12・24 の画像が多々投稿されていますので興味のある方はどうぞ!)

このホールで20時から3時間、刺激的で芸術的で魅力的なリズムに浸っていると一年間の苦い思い出が吹き飛びます。(楽しかった事は忘れない様にしていますが…)

そして、「頑張っても来年もまたここに来よう!」と思えるのです。A Hundred Birds の皆さん、今年のクリスマス・イブも宜しく!



「神戸に来て 18 年」

28期 大沼照実(旧姓 柿本)

二水関西のみなさま、こんにちは。随分前に堂島ホテルとリーガロイヤルホテルで行われ

た同窓会に参加したつきりでご無沙汰しています。夫の転勤であちこち行きましたが、今は神戸市西区に家族4人で暮らしています。夫は還暦を迎えましたがまだ働いていて、娘は社会人、息子もこの春から就職です。私は50歳を超えてから、とてつもなく金沢が恋しくなり、似た街並の京都に月1度は行きます。自宅では、お茶のお稽古を始め、着付けをし、九谷焼や輪島塗の器で創作手料理をお出ししたりの、不思議な毎日を楽しんでいます。極め付

けは一昨年からは頻りに二水仲間と会いたしたことです。皆さん少し余裕もできたのか連絡を早めにすれば必ず集まって下さいます。また両親も姑も年老いてやや心配なので親孝行の意味をこめ、金沢、東京(姑)とよく帰るのですが、ちゃっかりそれに併せて同期会を組み入れています。



東京でも10人くらいは集まってくれます。神戸で阪神大震災を体験し、また最近の東日本大震災ほか様々なことが起こり「毎日の大切さ」「会いたい方に今会いたい」との思いが強くなり、金沢育ちと思えないくらいとても積極的になりました。

そして30数年ぶりに会う同期の仲間とは、まるで昔からの親友のように語り合い、翌日からの元気の素(私はチャージすると言っています)をもらい、家族にも暖かく対応でき、「あ～幸せだなあ。二水でよかった」としみじみ思う今日この頃です。

関西二水会の河本さんも神戸にお住まいとのこととても嬉しく心強く思い、大好きな先輩とこれからもお付き合いをお願いしたいと思っています。



最後にちょっとお知らせを。「二水高校28期同窓会を8月に予定しています。関西の28期生の方ぜひ参加して下さいね。詳細は二水同窓会HPを見て下さい。」